

博士学位論文

「地域共生社会」の実現に向けた
コミュニティソーシャルワーク
実践理論に関する研究
—コミュニティソーシャルワーカーによる
「社会的孤立」支援の実践から—

2022年3月

愛知県立大学大学院人間発達学研究科

加藤 昭宏

目次

はじめに	1
序章	4
第1節 背景と目的	4
第2節 課題意識とソーシャルワーク実践理論	6
(1) ソーシャルワーク理論モデル	7
(2) ソーシャルワーク理論アプローチ	8
第3節 構成と研究方法	9
第4節 倫理的配慮	11
第1章 コミュニティソーシャルワークの理論化をめぐって	12
第1節 問題の所在	
——コミュニティソーシャルワーカーの導入と期待	12
第2節 コミュニティソーシャルワークの定義と機能	13
第3節 コミュニティソーシャルワーカーの曖昧さをめぐる課題	16
(1) CSWの広がりにおける3つの契機	16
(2) コミュニティソーシャルワーカーに求められる役割との乖離	18
第4節 個別支援と地域支援の「統合」をめぐる議論	20
第5節 個別支援と地域支援の「重複領域」	21
第6節 システムとしてのコミュニティソーシャルワーク	24
第2章 コミュニティソーシャルワークシステム構築に向けた手法	
——プロジェクトチームによる地域福祉活動計画策定プロセスへの着目	
	27
第1節 問題の所在	
——「コミュニティソーシャルワークを展開できるシステム構築」と	
地域福祉計画・地域福祉活動計画をめぐる議論	27
(1) 地域福祉計画をめぐる議論	27
(2) 社会福祉協議会および地域福祉活動計画をめぐる議論	30

第2節	計画策定プロセスからの実践的検討	31
(1)	第1次活動計画の概要, および成果と課題	31
(2)	第2次活動計画策定に向けたプロジェクトチームの立上げ	32
(3)	結果	
—	新計画の利点・有効性について	38
第3節	考察	
—	構造の変化, および意識の変化	39
第3章	ソーシャルワーク理論モデルとしての二次障害への着目	
—	コミュニティソーシャルワークにおける支援の「焦点」	45
第1節	問題の所在	
—	住民との協働におけるソーシャルワーク理論モデル・アプローチの 必要性	45
第2節	「関係性」をめぐる議論	46
(1)	「関係性」の課題としての「制度の狭間」	46
(2)	「関係性」についての概念整理	47
(3)	「関係性」への支援の担い手	48
第3節	ひきこもりからみる「制度の狭間」の背景	49
第4節	二次障害および併存精神障害についての理論的検討	51
第5節	「社会的孤立」事例からみる2つの二次障害の実践的検討	54
(1)	《発達障害の二次障害としての「ゴミ屋敷」および動物の過剰多頭 飼育》	55
(2)	《発達障害の併存精神障害による家族不和》	55
(3)	《背景に併存精神障害が想定される「近隣トラブル」》	56
第6節	考察	
—	「社会的孤立」事例における二次障害の生活史モデル	56
第4章	コミュニティソーシャルワーカーによる個別支援と地域支援の統合の 可能性	
—	二次障害による社会的孤立に対するコミュニティソーシャルワークの 支援の「枠組み」	64

第1節 理論的視座としての社会モデル
 ——「地域共生社会」の実現に向けた「我が事」への気付きのプロセス
 64

第2節 統合についての実践的検討 67
 (1) 地域支援の推進を志向した個別支援と地域支援の連動 67
 (2) 個別支援の深化を志向した個別支援と地域支援の連動 69
 (3) 統合による個別支援の深化および「我が事」の地域支援の推進 . . . 69

第3節 考察
 ——コミュニティソーシャルワーカーによる二次障害支援と社会モデル
 71

第5章 「クライン派対象関係論」を援用したコミュニティソーシャルワーク
 実践理論の展開可能性
 ——「関係性のなかで生じる問題」としての「被害感」への着目 74

第1節 問題の所在
 ——「地域共生社会」の実現に向けた「関係性」への支援の重要性 . . . 75

第2節 個別支援と地域支援の一体的展開による「社会的孤立」支援 . . . 76

第3節 ストレングス・モデルの有効性と限界 76

第4節 「関係性のなかで生じる問題」としての「被害感」への着目 . . . 77

第5節 「クライン派対象関係論」 78
 (1) 「クライン派対象関係論」を取り上げる理由 78
 (2) 「クライン派対象関係論」を援用したコミュニティソーシャルワーク
 実践理論の射程 79
 (3) 「妄想分裂ポジション」概念と「ポジション論」 79
 (4) 「コンテイング」概念 81

第6節 事例とその解釈について 82
 (1) ≪社会とつながることができないひきこもり事例≫の概要と対応
 83
 (2) ≪暴言を吐く等の「近隣トラブル」事例≫の概要と対応 84

第7節 考察
 ——「クライン派対象関係論」を援用したコミュニティソーシャルワーク
 実践理論の展開可能性 85

終章	「地域共生社会」の実現に向けたスプリッティング・モデルおよび コンテイング・アプローチの素描	89
第1節	本研究における考察の要約と整理	89
第2節	スプリッティング・モデルとコンテイング・アプローチの素描	92
	(1) 個別支援と地域支援の「重複領域」とコンテイング・アプローチ	92
	(2) 「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」概念の深化・拡大	98
	(3) 本研究の到達点	103
第3節	今後の課題	103
文献		107
おわりに		
——謝辞にかえて		113